

日本語日本文学専攻 博士課程前期

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 日本文学・日本語学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において修士の学位を取得するに足る知識を身につけることができる。
- DP2 科学的批判精神と洞察力をもって思考、判断し、日本文学・日本語学及び関連諸学に関わる諸問題を探究することができる。
- DP3 日本文学・日本語学及び関連諸学に深い関心を抱き、その研究に強い意欲を持ち、推進することができる。
- DP4 日本文学・日本語学及び関連諸学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、調査研究能力を身につけ、的確な表現力・コミュニケーション力をもって社会に貢献することができる。

日本語日本文学専攻 博士課程前期

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 個別指導により、研究計画に基づいた指導のもとで、本学学位規程に定められた基準の修士論文を課す。(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP2 日本文学・日本語学及び関連諸学に関わるより高度な専門知識の修得、理解のための講義科目を置く。(DP1、DP4)
- CP3 各分野における最先端研究成果を修得するための講義科目を置く。(DP2、DP3、DP4)
- CP4 課題の発見から解決のための方法を判断し、思考を練り上げるための演習科目を置く。(DP2、DP4)
- CP5 各専攻の諸分野について、関心と意欲を持つことのできる専門の科目を置く。(DP3、DP4)
- CP6 アクティブ・ラーニングに関する科目を置く。(DP2、DP3、DP4)
- CP7 専門的知識や技能によって、自発的に見出して解決した課題を発表しうる能力を養う専門の科目を置く。(DP2、DP4)

日本語日本文学専攻 博士課程前期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 日本文学・日本語学及び関連諸学に関わる大学学部修得レベルの専門知識を有する人。
- AP2 日本文学・日本語学及び関連諸学についての思考や判断を通して、自己の仕事と生き方について考えを深めたい人。
- AP3 日本文学・日本語学及び関連諸学のいずれかの分野での研究を希望する人。
- AP4 本専攻で学んだ技能を活かして、修了後に様々な分野で社会貢献をしたいと思っている人。

上記 AP 1 は筆記試験によって、AP 2～AP 4 は口述試験及び提出書類によって評価する。

日本語日本文学専攻 博士課程後期

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 日本文学・日本語学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を獲得することができる。
- DP2 博士課程前期で培った調査力・分析力・考察力を更に発展させ、独創的で自立した研究活動ができる。
- DP3 博士課程前期で研究したことへの深い関心を維持し、そのさらなる研究に強い意欲を持ち、推進することができる。
- DP4 日本文学・日本語学及び関連諸学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力をもって学術的な研究成果を発表し、学問の発展に寄与することができる。

日本語日本文学専攻 博士課程後期

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 各専門分野の研究の集大成として、研究計画に基づいた指導のもとで、本学学位規程に定められた基準の博士論文を課す。(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP2 各専門分野の高度なレベルで構成される専門知識の修得、理解のための講義科目を置く。(DP1、DP4)
- CP3 各分野における最先端の研究成果に対する知見を身につけるための講義科目を置く。(DP1、DP4)
- CP4 課題の発見から解決のための方法を判断し、その思考を実践することができる演習科目を置く。(DP2、DP3、DP4)
- CP5 各専攻の諸分野について専門的な関心と意欲を高めるための専門の科目を置く。(DP3、DP4)
- CP6 アクティブ・ラーニングに関する科目を置く。(DP2、DP3、DP4)
- CP7 専門的知識・技能を身につけ、自発的に見出し解決した課題を発表する能力を実践する専門の科目を置く。(DP2、DP4)

日本語日本文学専攻 博士課程後期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 博士課程前期で修得した、日本文学・日本語学及び関連諸学に関する高度な専門知識を活かして、学問の発展へ貢献しうる人。
- AP2 各専攻分野で修得した思考を深めることで、研究者としての仕事と生き方についての知見を持ちたい人。
- AP3 学問的思考を深めることで、学位取得を目指す人。
- AP4 博士課程前期で培った専門知識と研究方法により、更に高度で独創的な研究の継続を希望する人。
- AP5 本専攻で学んだ技能を活かして、研究職、教育職を目指し、社会貢献をしたいと思っている人。

上記 AP 1 は筆記試験によって、AP 2～AP 5 は口述試験及び提出書類によって評価する。

英文学専攻 博士課程前期

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 イギリス文学、イギリス文化研究、アメリカ文学、アメリカ研究、言語・英語研究並びに関連分野にわたって、広範な知識を身につけている。
- DP2 論理的な思考力を持ち、英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化に関わる諸問題を深く追究できる。
- DP3 研究対象を分析するための客観的な判断力と健全な批判精神を備えている。
- DP4 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化の諸問題について高い関心を有している。
- DP5 高度な英語能力と深い専門知識を活かして、教育現場等で、広く社会に貢献しようとする積極的姿勢を有している。
- DP6 英語で専門的な資料を読み解き、情報収集を行う能力を持っている。
- DP7 英語論文によって個人の考えを表現し、広く発信する能力を有している。
- DP8 自分の考えを他者に的確に伝えるための論理的思考力と表現力を身につけている。

英文学専攻 博士課程前期

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化に関わる専門知識を身につけるための講義科目を置く。(DP1、DP2、DP4)
- CP2 専門分野の論文を読み解き、自ら課題を発見する能力を養うための演習科目を置く。(DP6、DP7、DP8)
- CP3 本学学位規程に定められた基準の修士論文を完成させるための「特別研究」を置く。(DP2、DP3、DP4、DP6、DP7、DP8)
- CP4 学内の専門誌（Veritas や大学院紀要等）への論文の投稿や、大学院英文学専攻課程協議会の口頭発表での、積極的な研究成果の発表を促す。(DP7、DP8)
- CP5 全ての科目においてアクティブ・ラーニングを旨とする。(DP2、DP3、DP5、DP7)
- CP6 大学院英文学専攻課程協議会の研究発表会や修士論文中間発表会において、自分の研究を口頭で明快に伝える訓練をする。(DP7、DP8)
- CP7 修士論文を英語で執筆するため、英語による研究論文執筆の方法を学修する「英語論文作成法・上級」を置く。(DP6、DP7)
- CP8 英語教育の従事者として活躍できる人材を養成するための関連科目を置く。(DP5)

英文学専攻 博士課程前期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 イギリス文学、イギリス文化研究、アメリカ文学、アメリカ研究、言語・英語研究の少なくとも1つの分野において、大学学部卒業レベルの基本的知識を有する人。
- AP2 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化について、大学学部卒業レベルに相応しい洞察力と思考力を身につけている人。
- AP3 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化についての高度な専門知識を身につけることによって、社会の発展に貢献できる人。
- AP4 専門分野の英語による学術書や論文を的確に読み解くための大学学部卒業レベルの英語読解能力を有する人。
- AP5 知識の収集能力を持ち、それを体系的にまとめあげる力を備える人。

上記 AP 1 と AP 4 は筆記試験によって AP 2 と AP 3 は口述試験及び提出書類によって、AP 5 は提出書類によって評価する。

英文学専攻 博士課程後期

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 イギリス文学、イギリス文化研究、アメリカ文学、アメリカ研究、言語・英語研究並びに関連分野における高度で専門的な知識を身につけている。
- DP2 イギリス文学、イギリス文化研究、アメリカ文学、アメリカ研究、言語・英語研究の各専門分野において、自らの思考力・分析力によって独創的な発想を提示することができる。
- DP3 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化の諸問題について、自ら問題提起を行い、それを追究する意欲を持っている。
- DP4 高度な英語能力と深い専門知識を、専門の研究分野の発展に還元しようとする積極的姿勢を有している。
- DP5 研究によって到達した独自の考えを、学位論文にまとめる論理的思考力、表現力、英語力を有している。

英文学専攻 博士課程後期

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 英語圏を中心とした人文科学に関わる高度な専門知識を身につけるための講義科目を置く。(DP 1、DP2、DP 3)
- CP2 専門分野の高度な英語論文を読み解き、自ら課題を発見するための能力を養うための演習科目を置く。(DP 1、DP2、DP 3)
- CP3 学位論文執筆に必要とされる、的確な情報収集と課題解決の方法を獲得するための個人指導を行う「特殊研究」を置く。(DP 1、DP2、DP3、DP 4)
- CP4 公的学会の専門誌や本学の大学院紀要等への論文投稿を促す。(DP 2、DP3、DP 4)
- CP5 公的学会、大学院英文学専攻課程協議会での口頭発表等、積極的な研究成果の発表を促す。(DP 2、DP3、DP 4)
- CP6 全ての科目においてアクティブ・ラーニングを旨とする。(DP 2、DP3、DP 4)
- CP7 公的学会や大学院英文学専攻課程協議会の研究発表会において、自分の研究成果を発表する訓練をする。(DP 2、DP3、DP 4)
- CP8 学位論文を執筆するための個別指導を行う「特別研究（後期）」を置く。(DP 5)

英文学専攻 博士課程後期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 イギリス文学、イギリス文化研究、アメリカ文学、アメリカ研究、言語・英語研究の少なくとも1つの分野において、博士課程前期修了レベルの専門的知識を有する人。
- AP2 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化について、博士課程前期修了レベルに相応しい複眼的な視座と客観的な判断力を持つ人。
- AP3 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化についての専門知識を深めるとともに、新たな問題提起や発見を成し遂げることによって、当該の研究分野の発展に寄与できる人。
- AP4 専門分野の英語による高度な学術書や論文を的確に読み解くために十分な英語読解能力を有する人。
- AP5 各専門分野において成し遂げた新たな発見を、英語で的確に発表できる人。
- AP6 専門的な論文が英語で執筆できる人。
- AP7 自らの力で問題提起し、課題を追究していく能力を有する人。

上記 AP1 と AP4 は筆記試験によって、AP2 と AP3 と AP5 は口述試験及び提出書類によって、AP6 と AP7 は提出書類によって評価する。

歴史文化学専攻 博士課程前期

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野に関して広範な知識を有し、専門分野において修士の学位を取得するに足る知識を身につけている。
- DP2 グローバルな視点と科学的批判精神及び洞察力を持って、日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野を、客観的・論理的・体系的に探究・考察することができる。
- DP3 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野に深い関心を抱き、自身の研究に強い意欲を持ち、粘り強く研究を継続することができる。
- DP4 歴史に関わる多様な史料について、情報収集能力、読解力、分析力を身につけるとともに、的確で豊かな表現力、現代世界の諸事象を歴史的に理解する力、コミュニケーション能力を持ち、自身の考えを学会・社会に発信し、広く社会に貢献する能力を身につけている。

歴史文化学専攻 博士課程前期

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野に関わる専門知識を修得、理解するための講義科目を置く。(DP1、DP2)
- CP2 自ら課題を発見し、解決のための方法を導きだし、思考力を培うための演習科目を置く。(DP2、DP3、DP4)
- CP3 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野について関心を持ち、研究課題探究への意欲を高めることのできる専門科目を置く。(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP4 専門的知識や技能により、自身の研究課題、及びその成果を発表できる表現能力を養うための授業科目として「特別研究」を置く。また本学学位規程に定められた修士論文を課す。(DP1、DP2、DP3、DP4)

歴史文化学専攻 博士課程前期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野における大学学部で修得する基礎的な知識を身につけている人。
- AP2 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野を学ぶために必要な史資料の読解能力を身につけている人。
- AP3 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野についての思考や判断を通して、人間や歴史、社会に関する思索を深め、自己の生き方と社会のあり方、また未来について考えたい人。
- AP4 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野に関心を持ち、自身の研究に意欲的に取り組むことができる人。
- AP5 日本史・東洋史・西洋史・歴史表象及び関連諸分野において、自身の課題を定めて研究し、社会に貢献する力を身につけたい人。

上記 AP 1 と AP 2 は筆記試験によって、AP 3 ～AP 5 は口述試験及び提出書類によって評価する。

歴史文化学専攻 博士課程後期

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 日本史・東洋史・西洋史及び関連諸分野について、深くかつ広範な学識を有し、博士の学位を取得するに足る学術的知見を身につけている。
- DP2 博士課程前期で培った調査力・分析力・考察力を更に発展させ、グローバルな視野を持ち、独創的で自立した研究活動を行うことができる。
- DP3 博士課程前期で研究したことへの深い関心に基づき、研究活動を継続、維持しようとする強い意欲を持ち、研究を更に深化させることができる。
- DP4 日本史・東洋史・西洋史及び関連諸分野について、専門的な史資料を解読し、的確な表現力・コミュニケーション力によって研究成果を発表し、学問の発展に寄与する能力を身につけている。

歴史文化学専攻 博士課程後期

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 日本史・東洋史・西洋史及び関連諸分野について高度な専門知識の修得、理解のための講義科目を置く。(DP1)
- CP2 自ら課題を発見し、解決のための方法を導きだし、思考力を培い、まとめあげていくための演習科目を置く。(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP3 日本史・東洋史・西洋史及び関連諸分野について、専門的な関心と意欲を高めるための専門科目を置く。(DP1、DP2、DP3)
- CP4 研究を公表するための専門的・実践的な研究能力の向上を目的とする科目として「特別研究」を置き、論文や発表のための表現やプレゼンテーション能力を高める指導を行う (DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP5 自身の研究の集大成として、研究計画に基づいた個別指導のもと、本学学位規程に定められた基準の博士論文を課す。(DP1、DP2、DP3、DP4)

歴史文化学専攻 博士課程後期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 博士課程前期で修得した高度な歴史に関する専門知識を活かして、学問の発展へ貢献しようとする人。
- AP2 日本史・東洋史・西洋史及び関連諸分野で修得した思考に基づいて、研究を深化させることで、学位取得を目指す人。
- AP3 博士課程前期で培った専門知識と研究方法により、更に高度で独創的な研究の継続を希望する人。
- AP4 本専攻で学んだ技能を生かして、研究職や教育職を目指し、社会貢献をしたいと思っている人。

上記 AP 1 と AP 2 は筆記試験によって、AP 3 と AP 4 は口述試験及び提出書類によって評価する。